2月5日のウクライナ情報

安斎育郎

❶BRICS加盟に34カ国が関心表明、今年はロシアが議長国（CNN.co.jp，2024年2月4日）

※安斎注：CNN のニュースなのでウクライナ戦争は「ロシアの侵略」ということになっています。

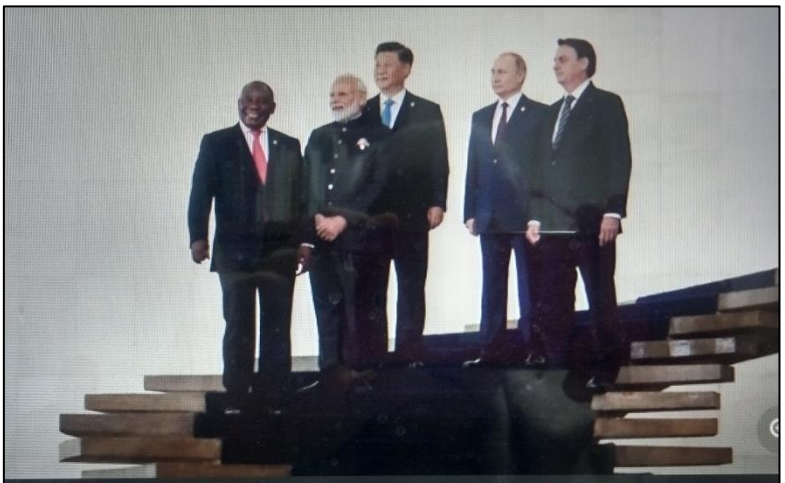
香港（CNN） 日米欧の主要7カ国（G7）に対抗して中国とロシアが主導する新興5カ国（BRICS）の一員である南アフリカのパンドール国際関係相は4日までに、BRICS加入への関心を伝えてきた国は34カ国に達すると述べた。

記者団に明らかにしたが、具体的な国名には触れなかった。輪番制となっているBRICSの議長国は今年、ロシアが務めており、加盟申請を受け付ける最初の国ともなる。

BRICSは2011年以降、中ロにブラジル、インドと南アによる組織として活動。数週間前には加盟国の拡大が初めて実現し、サウジアラビア、アラブ首長国連邦（UAE）、エチオピアとエジプトが正式に加わった。

BRICSの推進力の中心は中国とされ、米国が強い影響力を持つG7による不公平な国際秩序の構築に挑戦するための組織との見方もある。ウクライナ侵略で西側諸国からの経済的かつ外交的な締め出しを受けるロシアにとって加盟に関心を示す諸国の存在は孤立を避け得る好材料ともなる。

年次のBRICS首脳会議は今年10月にロシア南西部のカザン市での開催が予定されている。南アのヨハネスブルクで昨年開かれた首脳会議ではプーチン氏はオンライン上の参加にとどまっていた。ウクライナ侵略で戦争犯罪の容疑に問われ、国際刑事裁判所が逮捕状を出したことが背景にあった。



ＢＲＩＣＳ首脳会議に参加する各国首脳＝２０１９年、ブラジル（Ueslei Marcelino/Reuters）

https://news.yahoo.co.jp/articles/d703515c55d7036663a25fce302d46cac82e7e0c/images/000

❷なぜゼレンスキーは国民の信頼厚いザルジニー総司令官の「解任」に動くのか（JBpress，2024年2月4日）

「大統領府はザルジニーが政治的な発言をしていると懸念している」

【写真】2022 年 7 月 28 日、ウクライナ最高議会で、ワレリー・ザルジニー少将（右）と握手するゼレンスキー大統領

［ロンドン発］ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領（46）が 1 月 29 日、ロシア軍との壮絶な戦いを指揮するウクライナ軍のワレリー・ザルジニー総司令官（50）に退任を求めたが、総司令官はこれを拒否したと左派系英紙ガーディアン（30 日付電子版）が報じた。ウクライナ軍の反攻が不発に終わり、2 人の関係は一段と悪化している。

ウクライナの野党議員で総司令官の盟友とされるオレクシイ・ゴンチャレンコ氏はガーディアン紙に「29 日、ゼレンスキーはザルジニーに退任を求めたが、総司令官はそれを拒否した。対立の原因は人格の衝突だ」と明かした。「解任は悪い考えだと個人的に思う。大統領府はザルジニーが軍事ではなく政治的な発言をしていると懸念している」

29 日、ザルジニー総司令官更迭の観測がソーシャルメディア上で拡散した。これに対しウクライナ国防省は「事実ではない」と一蹴した。しかしゴンチャレンコ氏は「国内世論と西側諸国の反応を見極めた上で、ゼレンスキーはザルジニーを解任し、国防相の支持を得て後任の総司令官を指名するだろう」と軍部と文民の対立を煽る。

英誌エコノミスト（30 日付電子版）も「ゼレンスキー大統領が数週間にわたる緊張状態のあと、29 日にザルジニー総司令官を解任しようとしているというウワサがキーウを駆け抜けた。ウクライナで最も人気のある人物を更迭することは深刻な論争を呼び、ウクライナとロシアの戦争における極めて重要な瞬間を意味する」と指摘している。

■ 後任候補はシルスキー陸軍司令官かブダノフ情報総局長

ザルジニー総司令官の解任騒動は今回が初めてではない。エコノミスト誌が確認したところでは、29 日夕、ゼレンスキー大統領はザルジニー総司令官と会談し、解任を決めたと伝えた。国家安全保障・国防会議長官ポストを提示されたザルジニー総司令官は断った。ゼレンスキー大統領はザルジニー総司令官の説得に失敗した。

エコノミスト誌によると、後任候補としてオレクサンドル・シルスキー陸軍司令官（58）と国防省のキリーロ・ブダノフ情報総局長（38）の名があがっている。シルスキー陸軍司令官は 2022 年、首都キーウと北東部ハルキウの戦いで目覚ましい勝利を収めた。しかし昨年は東部ドネツク州の激戦地バフムートにこだわり、有能な指揮官を失ったと批判された。

通常の軍隊を率いたことがないブダノフ情報総局長は土壇場で総司令官の打診を辞退したとされる。米政治専門紙ザ・ヒル（30 日付電子版）は「総司令官の解任は間違いだ。ウクライナは非常に微妙な時期に、戦闘経験豊富で尊敬を集める指揮官を失うことになる」という米陸軍退役軍人アドリアン・ボネンバーガー氏の寄稿を掲載している。

「ザルジニーが解任されるとしたら、いくつもの小さな理由と、反攻の失敗という大きな理由がある。彼とゼレンスキーの些細な争い、ザルジニーのカルト化した人格、戦略を巡る意見の相違はザルジニ

ーが兵士や部下から集めている尊敬に比べると些細なものだ」とボネンバーガー氏は指摘する。

■「ウクライナの支配層にかつての団結の面影はない」

「戦争で将軍が解任されるのは軍隊を統率したり組織したりする能力がない場合に限られる。反攻に失敗したというだけでいま解任するのは間違いだ。ゼレンスキーを脅かしているという理由で解任するのも間違いだ。国内および国際政治の焦点は健全な防衛力を維持するために必要な兵員と武器をザルジニーに提供することだ」(ボネンバーガー氏)

総司令官が就任したのは 21 年 7 月。当時、ゼレンスキー人気は軍内部で低迷していた。若くて民主的で、北大西洋条約機構(NATO)基準の導入に前向きだったザルジニー総司令官の誕生は体制刷新の青写真にピタリと当てはまったと米シンクタンク、カーネギー国際平和基金のサイトにコンスタンチン・スコルキン氏は寄稿(昨年 11 月 30 日付)している。

「ゼレンスキーとザルジニーの対立は必然的なものではなかった。しかしウクライナの支配層にかつての団結の面影はない。戦闘が長引けば長引くほど、キーウはより積極的に非難する相手を探している。最も危険な分断線はゼレンスキー大統領とザルジニー総司令官に象徴される“文民当局と軍当局の矛盾”である」(スコルキン氏)

ザルジニー総司令官が政界入りを公言したことはない。しかし 22 年 4 月に自分の名前で慈善財団を設立したことが政治的すぎると批判された。フェイスブックに妻とのツーショット写真を投稿するたび、政界入りの意思表示との観測が官庁街に流れる。大統領職への信頼度がこの 1 年で 84%から 62%に低下する中、ザルジニー総司令官の信頼度は 88%と高い。

■ 英雄的なウクライナ軍と才能のない文民当局の対比

「将軍の一部と国家愛国主義的野党は英雄的なウクライナ軍と才能のない文民当局を対比させることで政治的資本を得ようとした。一方、大統領府はかつての前線兵士たちが軍出身者を国のトップに据えることを望むようになることを懸念している。ザルジニーは理想的な候補者だった」(スコルキン氏)。反攻の失敗が軍部と文民当局の不和を一段と強めている。

ザルジニー総司令官はエコノミスト誌(昨年 11 月 1 日付)に「NATO の教科書通りなら 4 カ月もあれば(ロシア軍が築いた防御帯を突破して)クリミア半島に到達し、戦うことができた。しかし、おそらく深く美しい突破は起こらないだろう」と前線が膠着状態に陥っている現実をあまりに正直に認めたため、ゼレンスキー大統領に叱責された。

英大衆紙サン(同月 20 日付)に総司令官との意見対立を問われたゼレンスキー大統領は危機感を露わにした。「軍人が政治をやることを決めるなら、それは彼の権利だ。しかし政治や選挙を念頭に戦争を指揮するのであれば、前線においても軍人としてではなく政治家として振る舞うことになる。将軍たちが政治に関与することは国家の統一を危うくする」

キーウ国際社会学研究所(KIIS)の世論調査(昨年 12 月 4～10 日、18 歳以上のウクライナ国民 1200 人)によると、ロシア軍の猛攻を食い止めるウクライナ軍へのウクライナ国民の絶対的信頼は 1 年前と変わらない 96%。ザルジニー総司令官も 88%の信頼度を得ている。これほど人気のある総司令官を切るとなるとゼレンスキー大統領も返り血を浴びるのは必至だ。

■ 信頼度は総司令官 92%、情報総局長 60%、陸軍司令官 33%

ザルジニー総司令官、シルスキー陸軍司令官、ブダノフ情報総局長の 3 人の名前を挙げてそれぞれの信頼度を尋ねたところ、ザルジニーは 92%、ブダノフが 60%、シルスキーが 33%。ザルジニーは西部、中央、南部、東部の 4 つの地域でも 90%を超える信頼度を誇っていた。ブダノフ、シルスキー両氏が後任人事の打診を断ったとしても何の不思議もない。

ザルジニー総司令官に対するウクライナ国民の信頼度は絶大だが、回答者の 43%がゼレンスキー大統領との間に何らかの意見の相違や摩擦があるかもしれないと考えていた。しかし「非常に深刻」ととらえているのは 8%だけで、35%は「それほど深刻ではない」と答えた。対立があるとは思っていない人が 39%と一番多かった。

ザルジニー総司令官の退任の可能性について、回答者の 72%が否定的な見方を示し、肯定的な回答者はわずか 2%だった。21%は中立的な見方を示していた。ゼレンスキー大統領がザルジニー総司令官を解任して交代させた場合、ゼレンスキー大統領を信頼している回答者の中でも 71%が否定的な見方を示し、肯定的だったのはわずか 3%だった。

KIIS のアントン・フルシェツキー所長は「ウクライナ国防軍とその司令部は国民の強い支持を維持している。ウクライナ国民は軍司令部と政治指導部との協調的かつ建設的な協力を期待している。その過半数が大統領を信頼し、59%が大統領と総司令官の両方を信頼している」と指摘する。

「ザルジニー総司令官退任の可能性について、特にゼレンスキー大統領を信頼している人々の間で率直に否定的な態度が見られる。政府関係者は総司令官に対するネガティブなメディアキャンペーンを続けている。ザルジニー総司令官に対する批判は、むしろ総司令官本人ではなく、ウクライナの政治力全般に悪影響を及ぼすだろう」

ウクライナに対する欧州連合(EU)の 500 億ユーロ(約 7 兆 9000 億円)支援はハンガリーのオルバン・ビクトル首相の反対で停滞し、2 月 1 日の緊急首脳会議でオルバン首相が EU 側の恫喝や懐柔策に折れてようやく承認された。米国の 610 億ドル(約 9 兆円)支援も米下院で多数を占める共和党の反対で暗礁に乗り上げる。窮地に追い込まれるキーウから鳴り響く不協和音にロシアのウラジーミル・プーチン大統領は高笑いしているに違いない。

【木村正人(きむら まさと)】

在ロンドン国際ジャーナリスト(元産経新聞ロンドン支局長)。憲法改正(元慶応大学法科大学院非常勤講師)や国際政治、安全保障、欧州経済に詳しい。産経新聞大阪社会部・神戸支局で 16 年間、事件記者をした後、政治部・外信部のデスクも経験。2002～03 年、米コロンビア大学東アジア研究所客員研究員。著書に『EU 崩壊』『見えない世界戦争 「サイバー戦」最新報告』(いずれも新潮新書)。

https://jbpress.ismedia.jp/articles/gallery/79215?photo=2&utm_source=yahoonews&utm_medium=referral&utm_campaign=photo

❸ウクライナで弾薬購入めぐる 59 億円規模の大規模汚職 ゼレンスキー大統領は汚職対策一環でホームページ上に所得公表(2024 年1月30日)

ウクライナ保安局は 27 日、国防省高官らが関与した弾薬の購入をめぐる大規模な汚職事件を摘発しました。日本円で 60 億円近くが横領されたということです。

ウクライナ保安局によりますと、おととし 8 月、国防省高官らが軍需企業「リビウ工廠」と砲弾 10 万発の調達契約を締結。国防省は代金として 15 億フリブナ、日本円でおよそ 59 億円を前払いしました。

しかし弾薬は 1 発も供給されず、代金は横領され、その一部はヨーロッパ南東部のバルカン半島に開かれた軍需企業の関連先の口座に送られていました。

ウクライナ保安当局は国防省高官や軍事企業の幹部らが汚職に関与した疑いがあるとみていて、このうち 1 人はウクライナから出国しようとしたところを拘束したということです。

ウクライナではロシアによる侵攻の前から汚職が深刻な社会問題となっていて、国際 NGO「トランスペアレンシー・インターナショナル」が公開している「腐敗認識指数」では、2022 年時点で 180 の国と地域のうち 116 位となっています。

汚職対策はウクライナが EU=ヨーロッパ連合に加盟する際の条件にもなっていますが、その一環としてゼレンスキー大統領は 28 日、大統領府のホームページに 2021 年と 2022 年の自らの所得を公開。

2021 年の大統領と家族の収入は日本円でおよそ 4200 万円と前の年から半減したということで、2022 年は 1400 万円とさらに減っています。

大統領府は、ロシアによる侵攻の結果、所有する不動産から得られる収入が減少したためだと説明しています。

https://news.yahoo.co.jp/articles/deec81fa14311e9eef55274bf7c4bc0f85c97df4

※ウクライナの汚職はすでに「文化」のレベルに達しており、大統領の所得を検証しようのない数字で発表しても、そんなことで解決する問題ではないでしょう。